



〇〇の「壁」

かつて、昭和の時代には「ベルリンの壁」が存在し、東西冷戦の象徴でもありました。平成時代には、養老孟司さんの「バカの壁」がベストセラーとなり、令和の今は、テレビで「有吉の壁」が絶賛放映中…。

いつの時代にも、それぞれの『壁』が存在してきましたが、学校教育現場でも「9歳の壁」という言葉が存在します。聞かれたことはありませんでしょうか？

「9歳の壁」とは、9～10歳、小3～4年生の時期の子どもたちがつまづきや劣等感を抱いたり、自己肯定感が持ちづらくなる現象のことです。 ※「小4の壁」「10歳の壁」とも言われる。

文部科学省の「子どもの発達段階ごとの特徴と重視すべき課題」というページにも解説されているのですが、高浜小学校にもこの『壁』が見られます。保健室の利用者で確認すると、1・2年生では圧倒的に外傷が多いものの、中学年になると、“心の相談”が増えてきます。高学年になると、そうした利用は減少してくるものの、まったく皆無というわけではありません。こうした現状も踏まえて、今回は「9歳の壁」について、保護者の皆様と一緒に考えてみたいと思います。

9歳ごろになると、自分と他者とを比較して劣等感を抱いたり、自己評価を下げてしまったり、自尊心をなくしてしまうことがあります。それによる子どもたちの反応は様々で、内に閉じこもってしまう子もいれば、他人への嫉妬が生まれ、無視や嫌がらせをして心のバランスをとろうとする子もいるそうです。ネガティブ感情が生まれやすい時期だからこそ、それらの感情との付き合い方を学ぶことが重要になってきます。

また、友人関係にも変化が生じます。気が合う子同士でグループを作り、友だちとの関係性が深くなっていきます。



しかし、関係性が深く濃くなるからこそ、閉鎖的な仲間集団となってトラブルが生じるケースもあります。同調圧力が生まれやすくなり、小さな行き違いに端を発した仲間はずれなどもあるようです。また、友人関係が深まることで、保護者との時間よりも友人を優先するようになったりもします。

こうした子どもたちへの対応として、保護者の皆様にはお願いがあります。お子様が自信や自己評価を取り戻せるよう、結果だけを見ず、「できること」「できたこと」を具体的に話したり、挑戦したことやがんばろうとしたことをほめたり認めてあげてほしいのです。

- ・「すごい」「さすが」などの言葉を使ってほめる
- ・何がよかったのかを具体的にほめる
- ・時には、第三者の言葉による影ほめを行う

「できないこと」に対しては、どうすればできるようになるかを具体的に話し合い、一緒に努力することを伝えると前向きな気持ちになれるはずです。

あまりに物事を悪いほうに考えて、不安や心配を抱いているときは、まずその気持ちに寄り添うことが大切だそうです。共感を示さずに正論だけを伝えてしまえば、子どもは心を閉ざしてしまうかもしれません。

学校でも担任や養護教諭、心の相談員が主となって対応にあたっておりますが、金曜日にはスクールカウンセラーも勤務しております。ご相談の依頼等あれば、ぜひ担任を通して一声かけていただくと幸いです。



参考資料：「9歳の壁」 ベネッセ教育総合研究所
「子どもの発達段階ごとの特徴と重視すべき課題」 文部科学省

5月の活動の様子

豆のさやむき
(1年生)



さつまいも苗植え(2年生)



座禅体験
(3年生)



書写指導
(4年生)



UNIKARA づくり
(5年生)



税金教室
(6年生)



漁協見学
(6年生)

地域の皆様、

いろいろとお世話になり

ありがとうございました。



6月行事予定

- 4日(火) 書写指導 [4・5年]
縦割り班遊び
歯磨き大会 [5年]
 - 5日(水) 読み聞かせボランティア
心肺蘇生法講習 [6年]
 - 6日(木) クラブ
 - 11日(火) プール掃除 [4・5年]
三松センター校外学習 [6年]
 - 12日(水) プール掃除 [6年]
 - 13日(木) 研究会のため 14:10 集団下校
 - 17日(月) ひまわり(非行防止)教室 [5年]
福祉・ボランティア出前講座 [4年]
 - 18日(火) クリーンセンター見学 [4年]
 - 19日(水) 読み聞かせボランティア
家庭学習がんばり週間(~25日)
 - 20日(木) 委員会
 - 21日(金) 研究会のため 15:05 集団下校
 - 24日(月) プール開き(水泳学習開始)
 - 25日(火) 児童集会
自転車安全教室 [2・4・6年]
- *毎週月・水曜日 15:05 集団下校